



パワード・スタジオモニター
LSR305, LSR308

パワード・サブウーファー
LSR310S

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

■ 安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。



警告

- 水に入れたり、濡らさないでください。火災や感電の原因になります。
- 必ずAC100V(50/60Hz)の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源ケーブルは、他の機器には使用しないでください。
- 電源ケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。
- 確実にアース接続をしてください。また、アース線の脱着は電源を外してから行ってください。感電の原因となります。
- 濡れた手で、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。



注意

- 不安定な場所に設置しないでください。落下によるけがの原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。
 - ・ 直射日光の当たる場所
 - ・ 温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ 湿気の多い場所
 - ・ ほこりの多い場所
 - ・ 振動の多い場所
- 配線は、電源プラグをコンセントから抜いてから、取扱説明書に従って正しく行ってください。電源プラグを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前に、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となります。また、スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れるときは一番最後にこのスピーカーの電源を入れてください。電源を切るときは一番最初に電源を切ってください。
- 移動は、電源プラグをコンセントから抜き、他の機器との接続を全て外してから行ってください。
- 電源プラグを抜くときに、電源ケーブルを引っ張らないでください。ケーブルが傷つき火災や感電の原因となります。
- ご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■ 目次

安全上のご注意.....	2
目次.....	3
主な特長.....	3
開梱.....	4
梱包内容の確認.....	4
設置.....	5
接続.....	6
各部の名称と機能	
LSR305、LSR308.....	7
LSR310S.....	9
LSR305 または LSR308 と、LSR310S の音量を調整する.....	11
トラブルシューティング.....	11
仕様.....	12

■ 主な特長

LSR305 と LSR308 は、新開発の“イメージコントロールウェーブガイド”を搭載し、音像の再現と細部の描写能力をこれまでにないレベルに高めました。ステレオやサラウンドで音響製作を行う音楽スタジオやポストプロダクションで、製作作品の品質を一段と引き上げることができます。

- 大型スタジオモニターの最上位機種“M2”のために新たに開発した、イメージコントロールウェーブガイドを搭載。音像の再現に優れ、スピーカーの外側に延びるほどの広いステレオ音場を再生します。中央の音像はこれまでになく明確になり、音場の奥行きや音像の大きさを的確に把握できます。リスニングポイントが広いため、スピーカーの軸外でも音質やバランスを正確に決定可能です。
- 1.5 インチ径ボイスコイルの低域ドライバーは、パワー・コンプレッションが少なく、大音量を連続して再生しても音質の変化を最小限に抑えます。低域ポートは、JBL 独自の“スリップストリーム”設計。乱流を抑え、低域ドライバーと組み合わせさせて伸びと深みのある低域を出力します。
- ネオジム磁石を使用した高域ドライバーはダンピング特性を最適化し、過渡特性と歪率が改善しました。聞き疲れが少なく、長時間の製作作業も快適に行えます。
- 設置する部屋の形状や容積が異なっても正確なモニター性能を発揮するため、独自の LSR 設計を採用。
- LSR305 は 5 インチ径の低域ドライバーを、LSR308 は 8 インチ径の低域ドライバーを搭載しています。各ドライバーには防磁対策を施し、磁界の漏れによる周囲の機材への影響を抑えています。
- 高域と低域のそれぞれにレベルを ± 2dB 変更する TRIM スイッチを搭載し、設置環境や音源に応じて周波数特性を微調整できます。

サブウーファースの LSR310S は、LSR305 と LSR308 の 20Hz 付近の低域成分を伸長するのに最適です。

- 豊かで力強い低域を出力する、10 インチ低域ドライバーを搭載。下向きに出力する独自設計を採用しています。
- 200W の Class D アンプを採用し、パワフルな低域を出力します。
- 低域ポートは、JBL 独自の“スリップストリーム”設計。乱流を抑え、伸びと深みのある低域を出力します。
- 3 種類のクロスオーバー設定を用意。低域を強調する XLF モードも搭載しています。

■ 開梱

スピーカーを梱包から取り出す際は、スピーカーを損傷しないよう、以下の手順に従います。

LSR305、LSR308

1. ダンボール製の配送用外箱から取り出します。
2. カラーで印刷された内箱を、上面が上になるように床面に置きます。
3. 内箱の上面を開けます。
4. 中の発砲スチロール製エンドキャップが外れないように押さえながら、内箱を慎重に上下逆さにして、上面が下になるように置きます。
5. ゆっくりと内箱を引き上げます。このとき、中のスピーカーとエンドキャップが持ち上がらないように注意します。

LSR310S

※ LSR310S は約 16kg あります。移動の際は重量にお気をつけください。

1. ダンボール製の配送用外箱から取り出します。
2. カラーで印刷された内箱を、底面が上になるように（逆さに）床面に置きます。
3. 内箱の底面を開けます。
4. 中の発砲スチロール製エンドキャップを外し、サブウーファースの脚を露出させます。
5. 内箱を慎重に上下逆さにして、サブウーファースの脚が床面につくように置きます。
6. ゆっくりと内箱を引き上げます。

備考

» 内箱やエンドキャップなどの梱包材は保管しておきます。スピーカーを再度梱包して輸送する場合は、上記の手順を逆の順序で行います。

■ 梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

LSR305、LSR308

- ・ パワード・スタジオモニター本体
- ・ 電源ケーブル
- ・ ゴム足× 4(1 シート)
- ・ 和文取扱説明書（本書）
- ・ 保証書

LSR310S

- ・ パワード・サブウーファー本体
- ・ 電源ケーブル
- ・ 和文取扱説明書（本書）
- ・ 保証書

■ 設置

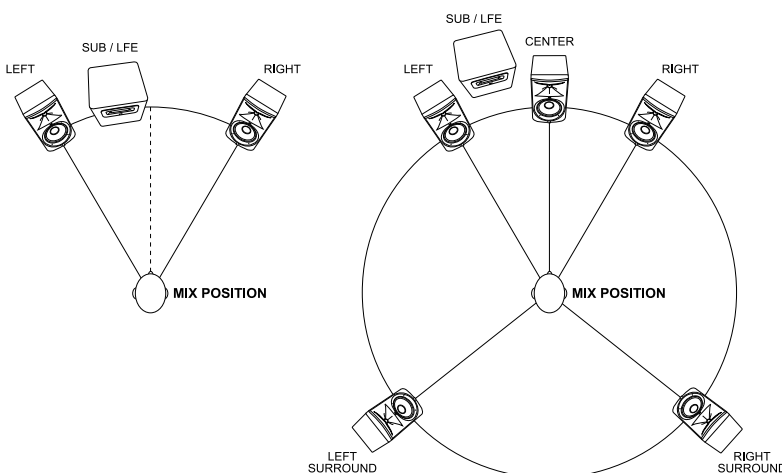
最高の性能を引き出すために、以下を考慮して設置してください。

LSR305、LSR308

- スピーカー底面を保護するために、付属のゴム足を底面に貼り付けます。
- 高域ドライバーが上になるように、縦位置に設置します。縦位置に設置すると、高域ドライバーと聞き手の耳との距離が、低域ドライバーとの距離と異なることで発生する位相シフトや周波数特性のキャンセルを取り除くことができます。
- 高域ドライバーが聞き手の耳を真っ直ぐに狙うように、スピーカーの角度を調整します。
- 可能であれば、作業デスクなどの上ではなく、適切なスピーカースタンドにスピーカーを設置します。スピーカーと作業デスクが機械的に結合することによって起こる、共振や低域特性の劣化を低減することができます。
- 最適な音像を得るために、隣接する壁面や反射面とスピーカーとの距離を左右で等しくして、左右のスピーカーが室内で対称になるように設置します。
- 左右のスピーカーと聞き手の位置が正三角形となるように設置します。スピーカー相互間の距離を調整すると、聞き手の位置で聞こえる低域の質が変化します。いろいろなスピーカーの位置を試してみて、望ましい低域特性や音像が得られる位置を見つけます。特にステレオ音源を聞く場合、ボーカルや楽器などが定位する音像の中心が、しっかりと再現される位置を見つけます。
- 聞き手との距離は、聞き手の好みや部屋の音響特性、聞き手の位置で必要な最大音圧レベルから決定します。この取扱説明書の仕様のページに、1mの距離における最大音圧レベルが記載されています。聞き手との距離が倍になると、聞き手の音圧レベルは、吸音性の部屋では6dB減少しますが、反射のある部屋では3、4dBの減少に留まります。

LSR310S

- 設置は十分なスペースがあることを確認してから行ってください。
- 床面に直接置いてください。
- 低域ドライバーは底面のパネルに下向きに取り付けられています。床には音を遮蔽するものをなるべく置かないでください。
- ステレオの場合は、左右のスピーカーの間に設置してください。サラウンドの場合は、左または右のスピーカーとセンターチャンネルの間に設置します。
- システム全体で最適な低音バランスを生成するよう、聞き手の位置からLSR310Sまでの距離を調整してください。壁の近くや部屋の角に設置すると、一般的には低音の量が増加します。いろいろなスピーカーの位置を試してみて、望ましい低域特性が得られる位置を見つけます。



■ 接続

入力端子はバランスの XLR 入力端子と標準フォーンジャック (3P) 入力端子を備えており、プロフェッショナル用コンピュータオーディオインターフェースやミキシングコンソール、各種の音響機器と接続できます。また、音楽プレイヤーや AV 機器など、アンバランスの一般用音響機器とも接続可能です。バランスの出力端子を持ったプロフェッショナル用機器は、バランス仕様のケーブルを使ってスピーカーの入力端子に接続します。

入力パネルには入力感度スイッチを備えており、出荷時には -10dBV に設定されています。以下のような場合には、このスイッチを $+4\text{dBu}$ に切り替えます。

- 定格出力レベルが $+4\text{dBu}$ のプロフェッショナル用機器と接続するとき、 $+4\text{dBu}$ に切り替えます。接続する機器の定格出力レベルは、機器に付属する文書を参照します。
- 音が歪んだり音量が大きすぎるとき、 $+4\text{dBu}$ に切り替えます。

備考

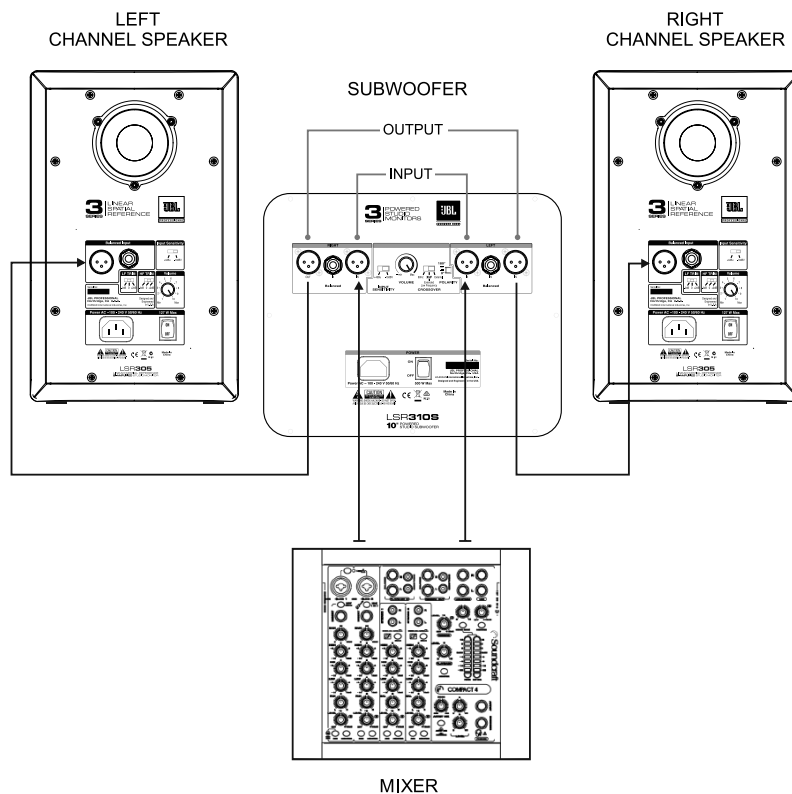
- » LSR305 または LSR308 と LSR310S でシステムを構成する場合は、LSR310S の入力感度スイッチの設定に関わらず、LSR305 と LSR308 の入力感度スイッチを -10dBv に設定してください。

注意

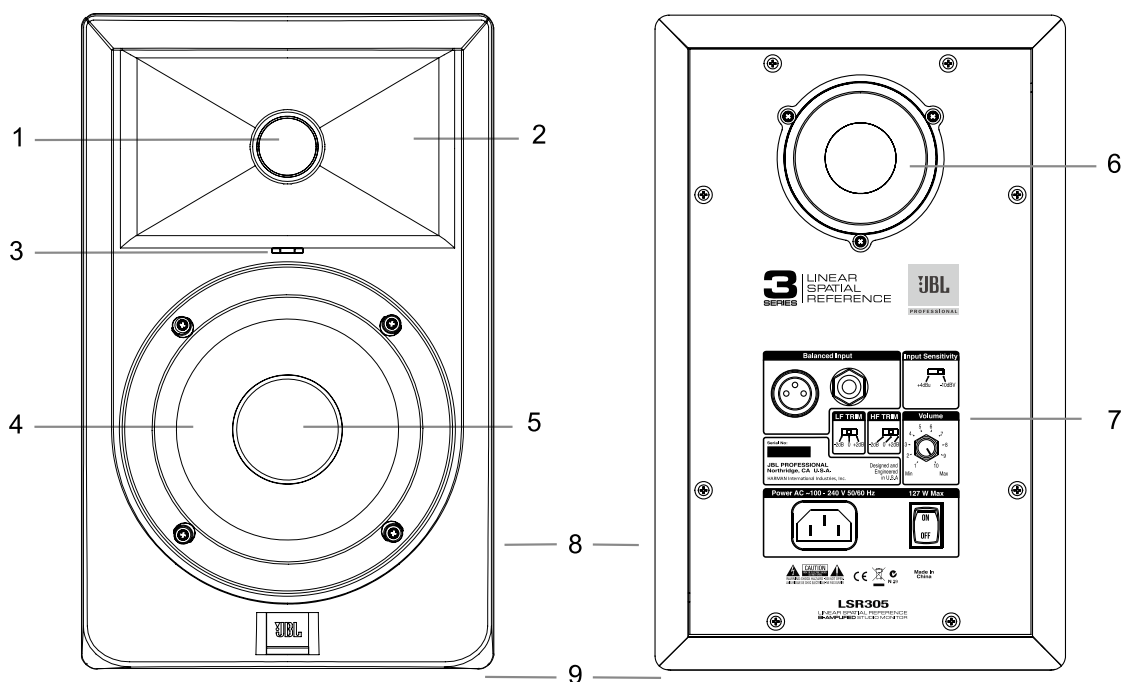
- » 電源ケーブルをコンセントに接続する際に、必ずアース接続をしてください。

▶ 接続例 (ステレオ)

LSR310S の左右の入力端子に音源からの信号を入力してください。LSR310S の左右の出力端子を、LSR305 または LSR308 の入力端子にそれぞれ接続してください。



■ 各部の名称と機能 - LSR305、LSR308



▶ 前面

1. 高域ドライバー（ツイーター）

高い周波数の信号を再生します。

2. イメージコントロールウェーブガイド

音像の再現に優れ、直接音と室内反射音のバランスを最適に保ち、色付けのない音質が得られます。

3. 電源インジケータ

電源が供給されていて電源スイッチがオンのとき、点灯します。電源スイッチをオンにしてから電源インジケータが点灯するまでに、僅かに時間がかかります。

4. 低域ドライバー（ウーファー）

低い周波数の信号を再生します。

5. ダストドーム

低域ドライバーの内部を保護します。へこみに対して強く、自己修復性を持っています。

▶ 背面

6. 低域ポート

独自のスリップストリーム設計を採用し、低域ドライバーと組み合わせることで正確な低域特性を実現します。

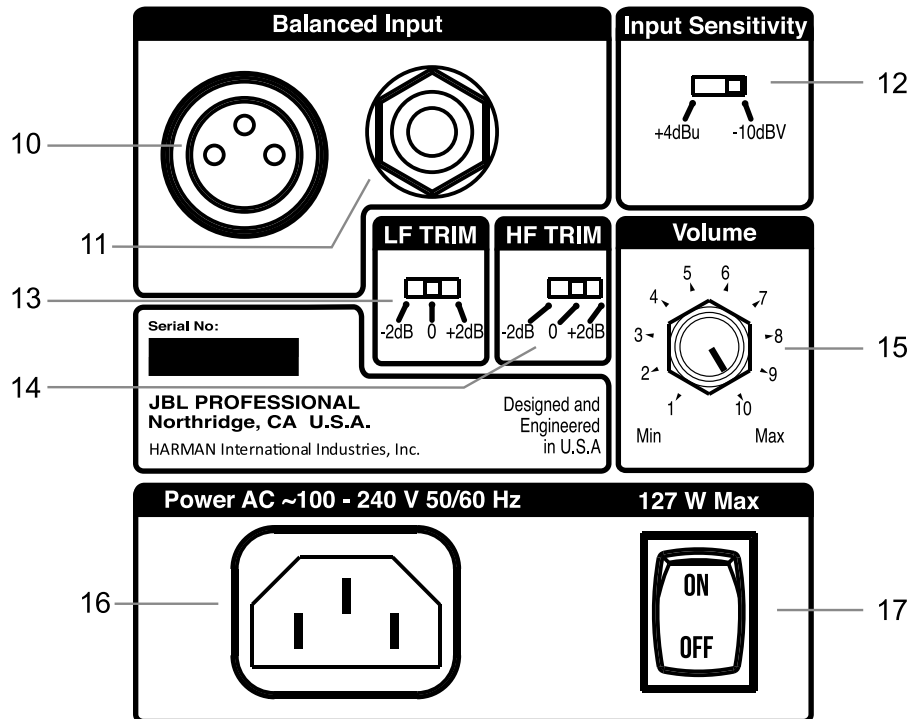
7. 入力パネル

入力端子や電源端子、つまみやスイッチを配置しています。

8. エンクロージャー

9. ゴム足

付属のゴム足を貼り付けてください。



▶ 入力パネル

10. XLR 入力端子

XLR コネクターを使って、プロフェッショナル用機器を接続します。

11. 標準フォーンジャック (3P) 入力端子

標準フォーンプラグを使って、バランスまたはアンバランスで接続します。

注意

» XLR 入力端子か標準フォーンジャック入力端子のどちらか一方にだけ、音源からの信号を接続します。両方の入力端子を同時に使用することはできません。

12. 入力感度スイッチ

プロフェッショナル用機器や高いレベルの信号を接続する場合は、+4dBu に設定します。

13. 低域トリムスイッチ

低域 (115Hz) の出力を ± 2dB、微調整します。

14. 高域トリムスイッチ

高域 (4.4kHz) の出力を ± 2dB、微調整します。

15. 音量つまみ

このつまみを使って最大音量を設定します。

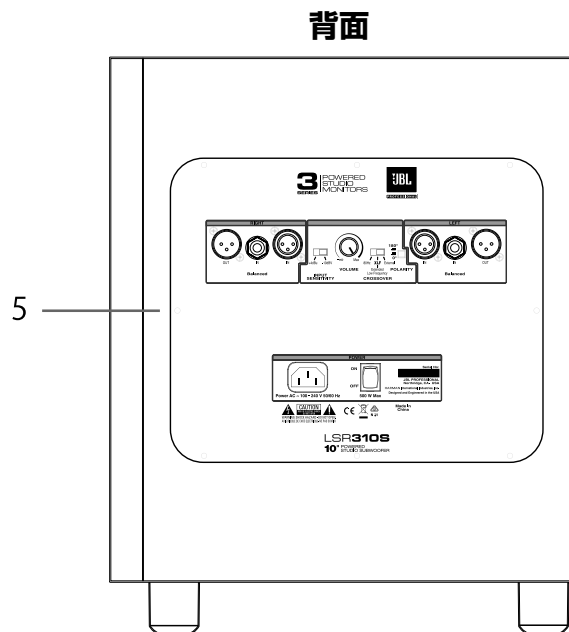
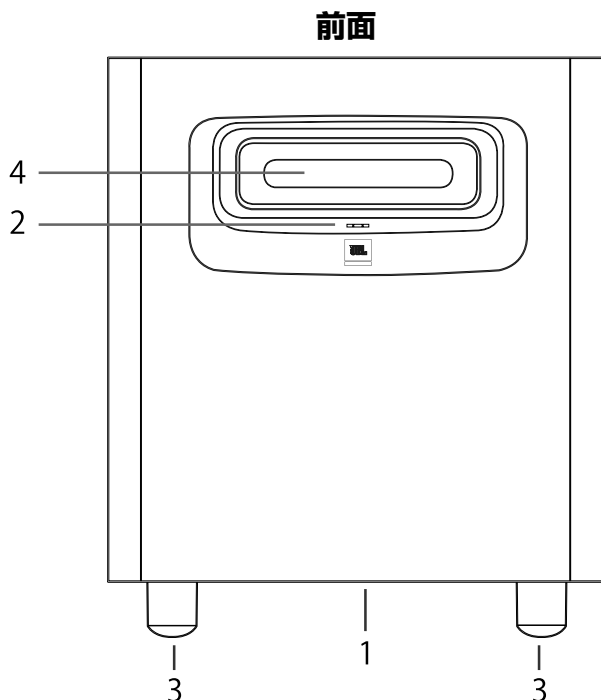
16. 電源端子

電源ケーブルを接続します。

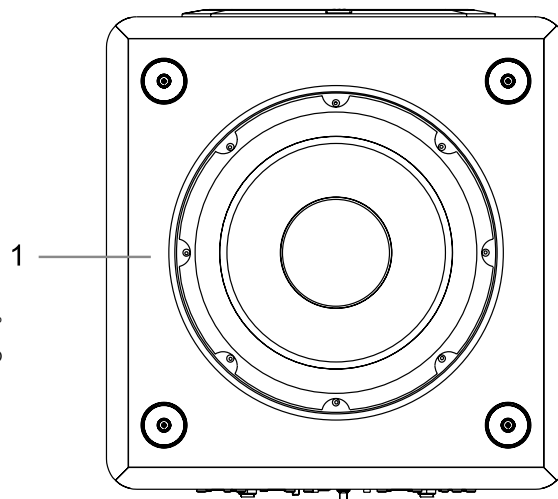
17. 電源スイッチ

電源をオン / オフします。

■ 各部の名称と機能 - LSR310S



底面



▶ 前面、背面、底面

1. 低域ドライバー（ウーファー）

低い周波数の信号を再生します。

2. 電源インジケータ

電源が供給されていて電源スイッチがオンのとき、点灯します。電源スイッチをオンにしてから電源インジケータが点灯するまでに、僅かに時間がかかります。

3. 脚

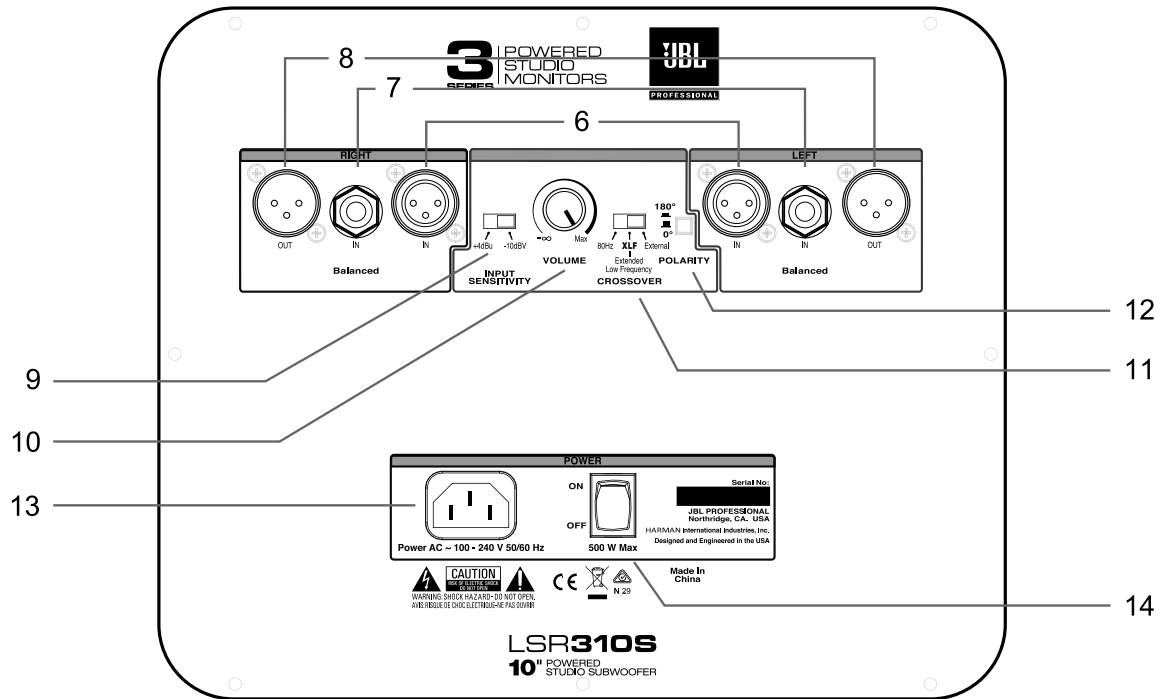
本体を持ち上げ、床面との音響的干渉を避けるための脚です。

4. 低域ポート

ドライバーと組み合わせって正確な低域特性を実現します。

5. 入力パネル

入力端子や電源端子、つまみやスイッチを配置しています。



▶ 入力パネル

6. XLR 入力端子 (LEFT、RIGHT)

XLR コネクターを使って、プロフェッショナル用機器を接続します。

7. 標準フォーンジャック (3P) 入力端子 (LEFT、RIGHT)

標準フォーンプラグを使って、バランスまたはアンバランスで接続します。

注意

» XLR 入力端子が標準フォーンジャック入力端子のどちらか一方にだけ、音源からの信号を接続します。両方の入力端子を同時に使用することはできません。

8. XLR 出力端子 (LEFT、RIGHT)

入力信号を出力する端子です。LSR305 または LSR308 との接続、または他の音響機器と接続する際の出力として使用できます。クロスオーバー選択スイッチの設定に応じて信号を出力します。

9. 入力感度スイッチ

プロフェッショナル用機器や高いレベルの信号を接続する場合は、+4dBu に設定します。

注意

» LSR305 または LSR308 と LSR310S でシステムを構成する場合は、LSR310S の入力感度スイッチの設定に関わらず、LSR305 と LSR308 の入力感度スイッチを -10dBv に設定してください。

10. 音量つまみ

このつまみを使って最大音量を設定します。

11. クロスオーバー選択スイッチ

XLR 出力端子から出力する信号に適用する、ハイパス・フィルターを以下の3種類から選択します。

- 80Hz.....80Hz ハイパス・フィルター。LSR305 または LSR308 と接続する場合に推奨する設定です。
- XLF.....120Hz ハイパス・フィルター。低域を特に強調したい場合に推奨する設定です。
- External.....フィルターなし。入力信号をそのままスピーカーから出力します。ユニットの破損原因になりますので、他の音響機器を使用してクロスオーバーを適用し、適切な信号を入力してください。
この設定にすると、XLR 出力端子は利用できません。

12. 極性

フルレンジスピーカーの中高域と LSR310S の低域のブレンドを最適化するために、スピーカーの位置に応じて LSR310S の出力極性を 180 度反転できます。スイッチを押しこんだ状態で 180° 反転になります。聞き手の位置で、低音が最大になるよう設定します。

13. 電源端子

電源ケーブルを接続します。

14. 電源スイッチ

電源をオン / オフします。

■ LSR305 または LSR308 と、LSR310S の音量を調整する

LSR305 または LSR308 と LSR310S でシステムを構成する場合、LSR305 または LSR308 の音量つまみと LSR310S の音量つまみを同じ位置に設定すると、理想的な音量バランスになるよう設計してあります。聞き手の位置やスピーカーの設置方法によっては、聞こえる低域の量に影響しますので、音量つまみを使って好みの音量に調整してください。

■ トラブルシューティング

音が出ないときは、以下の事項を確認します。

- 電源ケーブルが正しく接続され、電源スイッチがオンになっていること。
- 前面の電源インジケーターが点灯していること。
- 音源では音が出ており、音源と正しく接続されていること。
- 背面の音量つまみが、絞り切り（反時計方向最大）になっていないこと。

これらの事項を確認して解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ 仕様

	LSR305	LSR308	LSR310S	
形式	2-Way パワード・フルレンジ		パワード・サブウーファー	
周波数レンジ (-10dB)	43Hz ~ 24kHz	37Hz ~ 24kHz	27Hz	
最大音圧レベル (1m, C ウェイト)	108dB SPL	112dB SPL	113dB SPL (半空間)	
ドライバー構成	LF : 5 インチ (127mm) HF : 1 インチ (25mm)	LF : 8 インチ (200mm) HF : 1 インチ (25mm)	10 インチ (254mm)	
クロスオーバー	1,675Hz、 4 次リンクウィッツライラー	1,800Hz、 4 次リンクウィッツライラー	—	
パワーアンプ出力	LF : 41W、HF : 41W	LF : 56W、HF : 56W	200W	
入力端子・形式	XLR × 1、標準フォーン (3P) × 1、 電子バランス		XLR × 2、 標準フォーン (3P) × 2、 電子バランス	
入力感度 (-10dBV、1m)	92dB SPL			
最大入力レベル (+4dBu)	+20.3dBu			
電源	AC100V、50/60Hz			
消費電力	1/8 出力時、ピンクノイズ	15W	20W	20W
	電気用品安全法による	15W	20W	20W
寸法 (W × H × D、除突起部)	187 × 298 × 242mm	257 × 423 × 300mm	380 × 452 × 391mm	
質量	4.9kg	8.8kg	16kg	

この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、各社の登録商標または商標です。



<http://www.hibino.co.jp/>
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

札幌オフィス

〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三桑1-1-20
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ランチ

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ランチ

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509